



# 気候変動対策を進めていくためには

8月26日、サマースクール「温暖化対策を地域から進めるために、政治にできることは何か」を、認定NPO法人環境文明21共同代表の藤村コノエさんをお呼びして行いました。氷で覆われた氷河期の平均気温と現在の平均気温差は5℃。気温上昇3℃以内と提案されている気候危機の状況は待ったなしです。

布瀬めぐみ(大和市民会議/市議)

一人ひとりが 当事者であること

気候変動対策は、持続可能な社会と健全な環境と暮らしを次世代に繋いでいくためであり、誰かにしてもらおうものでなく、私たち一人ひとりが取り組むことが大切です。自分事として捉えて生活する人が増えることが大きな変革につながります。

プラスチックも 他人事にしない

海洋生態系に影響を及ぼしているマイクロプラスチック問題も他人事にしないことが必要です。私たちの生活に、プラスチックの存在は必要不可欠なものになっていきます。プラスチックを減らすための努力が求められます。今回、神奈川ネットワークでは1週間で容器包装プラスチックをどれだけ排出しているかの調査を行いました。プラスチック資源循環促進法が施行されたのが、まずはプラスチック容器を極力使わない生活を、一人ひとりが実践していくことが必要です。

「地球1個分の生活」の 実現に向けて

生活している中で、「あれ？なんか変じゃない？」と自らのアンテナがキャッチした時、まずはそれを口に出して話し合える仲間がいることが大切です。話し合い、議論することが次の行動につながります。もし世界の人全員がアメリカと

同様の生活をしたらと算出した場合、地球は5個必要だそうです。日本は2.8個分、世界平均で1.7個分、という結果だそうです。地球は1つ。地球1個分の生活は、私達一人ひとりの取り組みでしか実現しません。

環境とエネルギー問題は、私たちの生活、生きることと直結しています。そして、その環境の変化が一番影響を受けるのも私達市民です。だからこそ、市民参加型の政策決定をしていく際、市民の参画の場や市民への情報提供などが導入されるべきです。多くの市民が安全性に疑問を持つ原子力エネルギーに関しては、福島が全く見えないうちで、政府は原発新設の意思を表明しました。政府の打ち出す政策は、市民の声が十分反映されていないばかりか、カーボンニュートラルへの道筋が全く見えてきません。

石けん運動から始まった神奈川ネットワークの市民参加型の政治で、地球1個分の生活の実現につながっていくよう、今後も政策提案していきます。

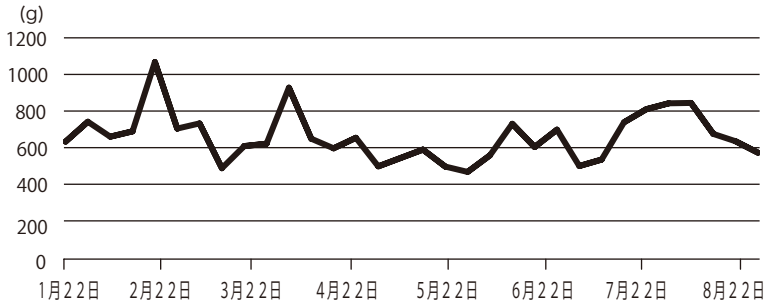
## 世帯構成と容器包装プラスチックの排出量

居住地	家族構成(人)	ゴミ袋サイズ(ℓ)	容量(g)
宮前	1	5	167
鎌倉	1+犬	30	338
麻生	2	25	270
相模原	2	45×2	2600
大和	3	45	343
海老名	3	30	540
伊勢原	4		347
藤沢	4	40	833
海老名	5	45	840
大和	3+猫3	30	1560

※神奈川ネット調査から一部抜粋

世帯数が多い方が排出量が多い傾向はありましたが生活実態にもよります

## ネット会員が1月～8月まで排出量を計量(大人2人・子ども2人)



## 国葬に反対し 市民民主主義をすすめる

視点



大西 いづみ (ネット宮前/市議)

9月27日、安倍元首相の国葬が執り行われる予定です。各方面からの「国葬の根拠は何か」の問いに対し、説明責任は果たされていません。また、民主主義の根幹ともいえる議論を経ない姿勢は、政権与党の権力乱用と言わざるを得ません。

そもそも、安倍政権時代、集団的自衛権の行使容認の閣議決定を行ったとき、これまでの立憲主義を蔑ろにする行為であると多くの人が立ち上がりました。権力に縛りを設け、人が生まれながらに持つ権利や自由を守るはずの憲法と真逆の行為は納得のいかないものでした。さらには、森友・加計学園に関わる公文書改ざん問題を始め、宗教学者との蜜月問題など、説明責任は果たされないうちままとなっています。多くの市民の声を無視し続け、権力を振りかざしてきたことが、政治への信頼を失墜させました。こうしたことから国葬に相応しい業績とは到底言えません。

私たち神奈川ネットは、憲章で市民民主主義をすすめるとしています。多くの市民が、政治へも参加し社会を作っていく責任を果たすために、地域で活動しています。拡大し

神奈川ネット・川崎ブロックでは、今回の国葬に反対し、半旗掲揚をしないよう、市民とともに市長へ要請しました。議員に任せにする政治ではなく、一人ひとりの声を大切にする政治になるよう、これからも、地域から政治を進めていきます。



9月8日市役所で要請